

子ども世帯 初の1000万割れ

22年「老老介護」過去最高63%

厚生労働省は四日、二〇二二年国民生活基礎調査の結果を公表した。児童（十八歳未満の未婚者）がいるも、一九年の前回の大規模

世帯数は九百九十一万七千で初めて一千万世帯を下回った。全世帯に占める割合

・3%と過去最低を更新。

少子化の加速が改めて示された。「老老介護」は過去最高の63・5%に達した。

岸田政権は六月に「こそも未来戦略方針」をまとめたものの、財源の裏付けなど不透明な面が多く、少子化対策の実効性が問われている。

児童がいる世帯を人数別に見ると、「児童一人」が49・3%とほぼ半数に上り、「二人」が38・0%、「三人以上」が12・7%だった。

同居の家族による介護

では、介護を受ける人と世

話をする人がともに六十五歳以上の「老老介護」が63・5%で、一九年調査から3・8%上升した。

高齢者世帯は千六百九十三万一千。全世帯に占める割合は、一九年の前回の大規模調査から2・5%上昇し31・2%だった。高齢化が進む中、単独世帯も千七百八十五万一千へ増えた。

施設。今回は三年に一度の大規模な調査で、質問項目やサンプル数を増やした。世帯に関する調査は二十万三千八百十九世帯、所得・貯蓄は一万九千四百四十世帯、介護は五千四百九十九人の回答を集計した。

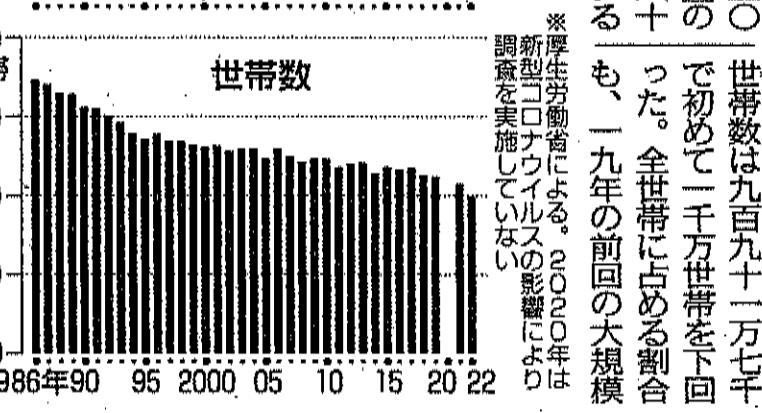
一九年から4・1%上がり32・9%を占めた。

調査は昨年六～七月に実施。世帯数は九百九十一万七千で初めて一千万世帯を下回った。全世帯に占める割合

・3%と過去最低を更新。

少子化の加速が改めて示された。「老老介護」は過去最高の63・5%に達した。

岸田政権は六月に「こそも



※厚生労働省による。2020年は新型コロナウイルスの影響により調査を実施していない。

・3%と過去最低を更新。少子化の加速が改めて示された。「老老介護」は過去最高の63・5%に達した。岸田政権は六月に「こそも未来戦略方針」をまとめたものの、財源の裏付けなど不透明な面が多く、少子化対策の実効性が問われている。

児童がいる世帯を人数別に見ると、「児童一人」が49・3%とほぼ半数に上り、「二人」が38・0%、「三人以上」が12・7%だった。

同居の家族による介護では、介護を受ける人と世